

オルゴールのオーケストラ

平成十四年 六年女兒

「ごちそうさまでした！」

「よし、行くぞ！」

「五班、オルゴール博物館に行ってきます。」

みんなご飯を大急ぎで食べて、私達は、一番楽しみにしていた班別研修に向かいました。マリリンピア松島水族館や伊達政宗歴史資料館、藤田周平ガラス美術館など、松島には見ごたえのある施設がたくさんありましたが、その中でも、私達五班は「松島オルゴール博物館」に行きました。

「早く青になってよう。」私には、信号が変わるまでの時間がとても長く感じられました。

博物館に到着して、中に入るとすぐオルゴールがあり、館内にはオルゴールの音色が流れていました。チケットを買い、二階の展示室へ行って見ると、博物館の案内役のお姉さんがオルゴールの説明をしていました。ダンスを

するときの演奏がわりに使われたダンスオルガン、ディスクが二枚つけられていて交互に聞けるダブルディスクオルゴール、街を歩きながらみんなに聞かせたストリートオルガン、と一つ一つていねいに説明してくれました。

私が特に興味を持ったのが、自動演奏ピアノでした。ピアノの中にある巻物状の薄い紙にいくつももの穴が開いていました。それは、縦に音の長さ、横に音階があり、この紙に空気を送り込むことによってピアノのけんばんが動くというオルゴールです。私は、「一枚の紙から強弱などの表現がある音色が聴けるなんて、素晴らしい技術だ。」と思いました。

「それでは、今度はこちらにお集まり下さい。」案内役のお姉さんが、反対側の客席でこう言っています。そこにあったのは高さ三メートル、幅が九メートルもある世界最大のオルゴールです。今日は私達のために特別に演奏してもらえることになりました。曲目はデイズニーメドレ

ー。
「わっ。」初めの音があまりにも大きな音だったので、思

わず声を出してしまいました。ほとんどが知っている曲で、曲のリズムに乗りながら楽しく聴くことができました。オルゴールには、二十五センチメートルくらいの人形がついているものもあり、音楽と一緒に動いていてかわいかったです。「百年も前に作られたものなのに、このような細かい技術があったのだなあ。」と感心しました。

その後、一階にあるオルゴールショップのオルゴールを見ました。様々なジャンルの曲がオルゴールになっていて、その中でもみんなに人気だったものは、透明のガラスケースに入っている箱型のオルゴールです。最近のアーティストの曲をふくめたすてきな曲がたくさんありました。

「うーん。どれにしようかなあ。」好きな曲がたくさんあすぎて、選ぶのに時間がかかったけれども、私は、ドリムズカムトゥールの「未来予想図II」をお母さんのおみやげに買いました。お母さんはいつも鼻歌でこの曲を歌っています。だから、とても喜んでくれるだろうなと思いつながら買いました。

帰ってお母さんに見せると、

「ありがとう。この歌大好きなんだよね。」と言ってくれました。私はこのオルゴールを買ってよかったなあと思いました。

私は今まで、オルゴールは耳で聴いて楽しむものだと思っていました。しかし、オルゴール博物館に行ったら、皆さんのオルゴールを見たら、「オルゴールは、耳で楽しむものだけでなく、目で楽しめるものもあったのだ。」と思いました。

オルゴール博物館に行って本当によかったです。また、ぜひ行きたいと思いました。